令和６年度　自己評価書

篠山小中学校組合立篠山小中学校

【評価基準】　A：目標を達成　　B：８割以上達成　　C：６割以上達成　　D：６割未満

1　特色ある学校づくり

評価項目	評価指標及び目標値	評価	学校による考察（◇）　改善方策（◆）	評価資料	個別評価	肯定率 4＋3	アンケート結果（%） 4	3	2	1
小中一貫教育を目指した教育の推進	組合立学校、小中合同校舎等の特色を生かし、「9年間で育つ篠南の子」を意識した教育活動を推進している。 目標値：教職員、保護者、地域の約90%が肯定	A	◇引き続き小中合同の校舎のよさを生かし、全校給食の実施や合同俳句集会、防災学習会など、多様な活動内容や形態を考慮しながら、小中間の交流の場を設定している。また、稲作を中心とした勤労生産的活動等も、児童生徒だけでなく教職員間で細かく共通理解を図りながら、合同で計画・実施していることが高評価につながっている。 ◆現在の体制を継続しつつ、児童生徒の発達段階に合わせながら、9年間を見通した教育の推進に努めていく。今後も、運動会や文化祭など、小中合同の学校行事や活動を、ホームページや各種たよりで積極的に広報することで、地域や保護者に周知させていく。	教職員1	A	**100%**	43%	57%	0%	0%
				保護者1	A	**100%**	50%	50%	0%	0%
				地域1	A	**100%**	44%	56%	0%	0%
		A	◇前期に引き続き、運動会や文化祭などの学校行事を保護者や地域の協力を得ながら開催することができた。また、今学期はお弁当の日に、収穫した米を使ったおにぎり実習の取組や地域の伝統文化である「花とり踊り」への参加見学等々、小中のみならず、地域と一体となった活動を積極的に取り入れたことが高評価につながっていると考える。 ◆高評価となったため、現在の体制を継続しつつ、児童生徒の発達段階に合わせながら、9年間を見通した教育の推進に努めていく。しかし、児童生徒や教職員の減少に伴い、小中合同の学校行事や活動について、精選や見直し、検討などをする必要もある。	教職員1	A	**100**	14	86	0	0
				保護者1	A	**92**	38	54	8	0
				地域1	A	**100**	67	33	0	0
ふるさと教育	地域の人材や教育資源を活用するなど、地域の教育力を取り入れた取組を計画・推進している。 目標値：教職員、児童生徒、保護者、地域の約90%が肯定	A	◇地域の評価はやや低いものの、全体的には高評価を得ている。学校では、今年度も総合的な学習の時間を中心に、「田植え」や「お茶つくり」、「防災学習会」など、地域の人材を活用した活動や地域と共に取り組む活動を推進している。また、活動の際には地域コーディネーターを積極的に活用し、地域人材と交流する機会を増やしたり、地域の教育力を取り入れたりすることで評価が高まったと考えている。 ◆これからも運動会や文化祭など、学校行事には積極的に地域の人材を活用し、小中の連携を図りながらより効果的な学習活動になるように進めていく。また、地域ボランティアへの活動にも幅を広げ、県道花壇整備の活動にも積極的に呼び掛けることで、学校と地域の連携を密にしていく。	教職員2	A	**100%**	0%	100%	0%	0%
				児童生徒8	A	**100%**	77%	23%	0%	0%
				保護者2	A	**100%**	50%	50%	0%	0%
				地域2	B	**89%**	33%	56%	11%	0%
		A	◇総合的な学習の時間を中心に、稲作活動や作物の栽培など、地域に根ざした特色ある活動を推進してきた。また、前期から引き続き、活動の際には地域コーディネーターや学校運営協議会委員、そして高齢者を中心とした地域団体を積極的に活用した。さらには、「福祉学習」や「県道花壇の美化活動」等にも機会の場を広げ、地域の教育力を取り入れた取組をより一層推進することができた。これらの取組から、全体的にも高評価が維持できているのではないかと考える。 ◆全体的には高評価を維持できているが、少数意見に目を向けると、地域人材を活用できていないという意見があるため、今後も活動への参加協力の幅を広げ、より積極的に呼び掛けを行うことで、学校と地域、保護者の連携を強固にしていく。	教職員2	A	**100**	29	71	0	0
				児童生徒8	A	**93**	62	31	8	0
				保護者2	A	**92**	31	61	8	0
				地域2	B	**89**	67	22	11	0
家庭・地域との連携	各種たよりやホームページ等で学校の取組や児童生徒の様子を適時に発信している。 目標値：教職員、保護者、地域住民の約90%が肯定	A	◇各種行事の参加者を制限しない状況で実施することができた。その結果、保護者・地域のいずれもが肯定的にとらえている。ホームページをはじめとして、学校だよりや学級だより、保健だより等、様々な手段で学校の取組を周知しているためと考えられる。教職員については、学級だよりの発行が不十分だったと反省している者がいるため、やや低い評価になっている。 ◆学校だよりを回覧板で見ていただく方法をとっているが、現在、トラブルや相談などの連絡はない。従って、学校の取組の周知については、現行を継続しつつ、より確実に伝わるような手段をさらに講じるように工夫する。ただし、学校からの一方通行の伝達だけでなく、地域の「願いや思い」を把握する機会を増やすことも必要であると考える。	教職員3	B	**85%**	14%	71%	14%	0%
				保護者14	A	**100%**	60%	40%	0%	0%
				地域7	A	**100%**	56%	44%	0%	0%
		A	◇ホームページの更新や各担当からのたより等、学校行事を中心とした全体の取り組みだけでなく、学年ごとの活動の様子もタイムリーな状態で情報発信することで、家庭・地域への働き掛けができている。それ故、一部教員間では差があるものの、地域、保護者からの評価は高く維持されている。今後もこの情報発信が、家庭・地域との信頼関係を結んでいく1つのツールとして継続する必要がある。 ◆地域住民や保護者からは高評価をいただけているので、現在の体制を継続していく。教職員については、ICT機器を活用した情報発信の仕方や短時間で作成できる方法の研修を重ねていき、より充実した情報発信の体制を整えていく。	教職員3	B	**85**	14	71	14	0
				保護者14	A	**100**	38	62	0	0
				地域7	A	**100**	78	22	0	0

学校運営協議会委員の意見	・たいへん良い取り組みができている。 ・すべてA評価ですばらしい。今後もこのままであるように努力していきましょう。協力していきます。 ・様々な勤労生産的活動を行っているが、児童生徒と教職員の減少に伴い、負担が大きくなっているのではないかと思う。特に、稲作については再考する時期になっているのではないかと思う。 ・様々な体験を通して、いろいろなことが身に付き、心身ともに成長していると思う。	学校の対応	・本校の特色である小中合同校舎ならではの教育や、小中合同学習、乗り入れ授業等を今後も継続して実施していく。また、保護者や地域住民との連携を更に強化してふるさと学習等を充実させることで、郷土愛の育成に努める。 ・ホームページの閲覧数が多いことから、定期的に更新するとともに、学校だよりでもタイムリーな話題、総合的な学習の時間などの目的や活動内容、保護者・地域住民と連携して取り組むことを掲載していく。 ・学校から一方通行の伝達だけで終わらすことがないように、保護者や地域の方々の「思いや願い」を把握するように努め、情報発信していく。 ・稲作体験活動については、保護者や地域の皆様と熟議を重ねながら進めていきたい。
	後期 ・「ふるさと教育」については、十分にできているのではないかと思います。これから、計画を立てるのであれば、篠南の歴史についても学ばせてもよいのではないでしょうか。 ・稲作などは、生徒数・教職員数が減っていく中で、同じように行っていくことは無理があるのではないか。検討が必要なのではないかと思います。 ・地域とのつながりという観点から、以前に行っていた、高齢者宅訪問を復活させてもいいのではないでしょうか。 ・以前は、小学生女子が「五つ鹿」をしていた。文化祭で、小中合同の「五つ鹿」踊りを披露してもいいのではないでしょうか。		・総合的な学習の時間の中で、篠南地域の歴史を調べたり学んだりしていくことで、郷土愛や地域への誇りを育むことができるように年間計画に組み込んでいきたい。 ・稲作体験活動は、児童生徒数と教職員数の減少に伴い、活動田を半減して継続させていただきたい。地域の皆様にも協力を仰ぎ、有意義な活動になるよう努めていく。 ・高齢者住宅訪問の目的（高齢者との交流、福祉への理解、地域貢献など）を明確にし、教育課程における位置付けを検討する。また、社会福祉協議会や地域コーディネーターと連携し、訪問先の選定や訪問計画の作成について協力体制を築きたい。 ・「五つ鹿」踊りの歴史や背景、特徴などを調べ、文化祭でどのように紹介するかを検討したい。 ・児童生徒が地域課題や地域の魅力について探求し、解決策やアイデアを提案する学習を奨励できるように今後も努めていく。

2　確かな学力の定着と向上

基礎学力の定着	小➡児童は、「読み・書き・計算」の基礎学力が身に付いている。 中➡生徒は、基礎的・基本的な知識・技能が身に付いている。 目標値：教職員、児童生徒、保護者の**約85%が肯定**	A	◇教師が少人数の利点を生かし、個に応じた指導や授業の工夫を行うことで、児童生徒も授業に意欲的に取り組むことができ、基礎学力が身に付いていると思われる。また、保護者は、これらの実践を授業参観やテストの成績等から鑑みて、評価したのではないかと思われる。中学校は、各教科で、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けるだけでなく、理科の実験や英語のスピーキングなど発展的な活動も取り入れていることから高い評価を得られたと考えられる。 ◆教科によっては、苦手意識を持つ児童生徒がいたり、基礎的な内容の理解や定着が困難な児童生徒もいる。こうした児童生徒が少しでも学力を向上させることができるように、さらに個別の対応をする必要がある。	教職員4	A	**100%**	0%	100%	0%	0%
				児童生徒2,14	A	**96%**	50%	46%	4%	0%
				保護者12	A	**100%**	40%	60%	0%	0%
		A	◇小中学校ともに、導入時に前時の復習をしたり、まとめの時間に振り返りの時間を設けるなど、基礎的・基本的な知識を身に付けられる工夫を継続した。また、話合い活動やプレゼンテーションソフトを活用した発表など、表現力を高める授業も行われているので、高い評価を得られたと考えられる。 ◆教職員の評価が一番低い。テスト等の結果を鑑みて課題を感じていると考えられる。引き続き、個の課題に対する対応・対策を講じながら指導していく。	教職員4	B	**71**	0	71	29	0
				児童生徒2,14	A	**100**	58	42	0	0
				保護者12	A	**92**	31	61	8	0
授業改善 ICTの活用	児童生徒が自分の考えを分かりやすく表現したり、物事を論理的に考えたりする授業を実践している。また、ICT機器を効果的に活用している。 目標値：教職員、児童生徒の**約85%が肯定**	A	◇各教科でchromebookを効果的に活用していることから、高い評価を得られている。小学校は、eスタを読んで記事をまとめて感想を書いたり、chromebookを使って自分の考えを記入して話し合ったりしている。また、ドリルパークやEILSを用いて、宿題配信をしたり「ささなじゅく」で活用したりしている。中学校は、毎週火曜日にEILSで「eスタ」の問題を解いたり、毎週木曜日にドリルパークで5教科の学習をしている。これらのことも、学力向上に役立っていると思われる。 ◆ICT機器の効果的な活用方法について、教員間で情報交換してレベルアップしたい。	教職員5	A	**100%**	29%	71%	0%	0%
				児童生徒4,5,9	A	**95%**	67%	28%	5%	0%
		A	◇小中ともに「eスタ」で新聞記事を読んだり、ドリルパークで教科の復習をしたりした。また、「キャンバ」というソフトを活用した発表資料の作成をさせるなど、ICT機器を効果的に活用することもできた。小学校では、授業の中で自分の考えを説明したり、話し合ったりする時間を必ず設定した。中学校では、授業でグーグルフォームを活用した単語テストを実施した。これらの取組が、授業改善につながっていると思われる。 ◆「あまりそうはおもわない」を選択した児童生徒は、「分かりやすく」という点に自分の課題を感じたようである。授業の中で継続的かつ具体的に指導を行い、自信を持って表現できるように繰り返し指導していく。	教職員５	A	**100**	14	86	0	0
				児童生徒4,5,9	A	**95**	57	38	5	0
家庭学習の定着	児童生徒は、家庭学習の習慣が身に付いている。(小学校中学年は40分、中学生は90分以上) 目標値：教職員、児童生徒、保護者の**約85%が肯定**	C	◇小学校は、家庭学習の目標時間は達成できているが、丁寧さや正確さは欠けている。また、宿題忘れが目立つ児童もいる。これらのことが低い評価につながっていると思われる。中学校は、学習内容の理解が困難な一部の生徒が宿題を出せないことはあるが、多くの生徒は課題をきちんと提出できている。一学期末テストの勉強にも今まで以上に取り組むことができ、実際に成績を伸ばすことができた生徒もいた。そうした生徒のよい変化に喜びを感じている保護者もいる。テニスの練習で疲れている中、睡眠時間を削って宿題に取り組み、きちんと提出する生徒も多い。 ◆家庭でどのような学習（学習の仕方）をすれば学力を向上させることができるのか、教師がしっかり説明したい。またICT機器を活用し、児童生徒が家庭学習を通して理解を深めることができる環境を提供したい。	教職員6	B	**86%**	29%	57%	14%	0%
				児童生徒3	B	**77%**	46%	31%	8%	15%
				保護者4	C	**60%**	20%	40%	40%	0%
		B	◇前期に比べ教職員・児童生徒・保護者共に「あまりできていない」を選択した割合が減っている。小学校では、マスターウイークの取組を中心に家庭との連携を図りつつ、指導ができた成果であると思われる。中学校では、授業改善により家庭学習への意識がやや高まったのではないかと思われる。秋以降下校時刻が早くなり、家庭学習に取り組める時間が長くなったことも理由として考えられる。今後も適切に課題を出し、学習内容が身に付く家庭学習になるよう心掛けたい。 ◆期末テスト期間中の家庭学習中に、スマートフォンを触って学習に集中できなかったと反省をしている生徒がいた。家庭学習のあり方について生徒に継続して指導するとともに、保護者にも家庭での学習のあり方について親子で話し合うよう啓発する必要がある。	教職員6	A	**100**	29	71	0	0
				児童生徒3	A	**100**	38	62	0	0
				保護者4	C	**69**	31	38	23	8

学校運営協議会委員の意見	・家庭学習の定着は、子どもの今後の人生と進路に影響するので、あと5分、10分の積み重ねが必要だと考える。 ・ICTの活用により、家庭学習の習慣化が向上できないだろうか。 ・家庭学習の定着についての評価が低く残念だが、これからの努力で改善できると思う。 ・ICTの活用は、児童生徒が楽しんでやっているようなので、効果は多分に出ていると思う。 ・この評価に直接は関係ないが、月曜日の子どもたちの荷物が多いように思う。	学校の対応	・極小規模校のよさを生かし、児童生徒一人ひとりに、よりきめ細やかな指導をしていく。基礎的・基本的な学習内容の定着・向上を目指し、誰もが「分かった」「できた」と言える授業改善を進めていく。 ・何のために宿題をするのか、どのように家庭学習をしていくのかを児童生徒一人ひとりに理解させていく。「家庭学習の手引き」や「自主学習の手引き」などを作成していく。 ・ICT機器（クロムブック）を活用した宿題を出したり、小テストやドリル問題を作成したりし、児童の学習意欲が高まる取組を進めていく。
	後期 ・極小規模校ならではの個別指導ができるので、個を伸ばしていくとともに、発展的な学習へとつなげていってほしいと思います。 ・以前は、愛媛新聞の俳句キッズコーナーによく掲載されていたが、最近は見ることが少なくなり寂しく思います。絵画での活躍はとてもすばらしいと思いました。		・個別指導のスキルや、児童生徒の個性や能力を理解できるようにするための研修を充実させる。 ・ ICTを活用することで、個別学習や発展的な学習を効果的に行えるように努める。 ・児童生徒に俳句の基礎や作り方を繰り返し学ぶことができよう、集会活動を定期的に開催し、俳句への興味関心を高ていく。また、 講師を招き、子供たちに直接指導していただくことで、俳句の質を高めていきたい。

3　豊かな心と健やかな体を育てる教育の推進

道徳教育の充実	道徳科や特別活動等の授業を通して、自他を思いやる児童生徒が育っている。 目標値：教職員、児童生徒、保護者の**約85%が肯定**	A	◇道徳科でも、めあてを意識した授業を実践したり、中学校ではオンラインで学習したりすることで、主体的・対話的な学びが保障されたことが高評価につながっていると思われる。また、小中合同の活動を含め、すべての教育活動を通して指導してきたことで、互いを思いやる心を育むことができているのではないかと思われる。 ◆教師の「よくできている」の評価が一番低い。少人数のため、何気ない言動など、すべて目の当たりにできる環境にあるため、気になる点があると思われる。タイミングを逃さない指導と児童生徒にしっかりと考えさせる指導の両方を今後も意識して実践していきたい。また、今後も、地域の方々やオンラインで他校の児童生徒との交流を通して、表現する力の育成にも努めていきたい。	教職員7	A	**100%**	14%	86%	0%	0%
				児童生徒7	A	**100%**	85%	15%	0%	0%
				保護者11	A	**100%**	50%	50%	0%	0%
		A	◇教職員・児童生徒ともに前期と同じ結果のA評価となっている。数多くある小中合同の学校行事や学校生活の中で、互いを思いやる心の育成ができてていると思われる。 ◆前期に引き続きA評価となったが、保護者の評価の中に「あまりあてはまらない」を選んだ方がいる。毎月の教育相談や生活アンケート及び、この学校評価アンケートで、この項目を選んだ児童生徒はいないので、教育相談や各種アンケートは実施しつつ、集団の中での児童生徒の様子をしっかりと観察していく。また、保護者から気楽に相談していただけるよう、継続してコミュニケーションを図り、信頼関係を深めていく。	教職員7	A	**100**	14	86	0	0
				児童生徒7	A	**100**	85	15	0	0
				保護者11	A	**92**	23	69	8	0
挨拶・返事運動の推進	気持ちのよい挨拶・返事ができる児童生徒が育っている。 目標値：教職員、児童生徒、保護者、地域住民の**約90%が肯定**	A	◇児童生徒や地域住民は、高評価だったが、保護者の一部に「家庭内では挨拶ができていない」という意見があったり、教職員の中に「できている時とできていない時の差がある」という意見があったりしたが、それぞれ１名であったため、A評価とした。 ◆人に何かを伝える時に声が小さかったり、促されて発したりする児童生徒がなくなるように、根気強く指導を継続していく。また、道徳の時間や、日頃の児童生徒との会話で、感謝の気持ちを言葉で伝えることの大切さや人と人とのつながりの第一歩は挨拶であることなどを指導していき、コミュニケーション能力を高めていきたい。	教職員8	B	**86%**	14%	71%	14%	0%
				児童生徒10	A	**100%**	62%	38%	0%	0%
				保護者7	A	**90%**	30%	60%	10%	0%
				地域3	A	**100%**	22%	78%	0%	0%
		A	◇前期の課題として、保護者の一部に「家庭内では挨拶ができていない」という意見があったが解消された。しかし、教職員の「できている時とできていない時の差がある」という意見が継続している。改善させなければならないが、１名の意見のためA評価とした。 ◆今後もまずは大人が手本を示し、家庭や学校で挨拶が飛び交う環境を作るようにする。また、子供の挨拶を褒めたり、できたことを認めたり、励ましたりすることで自己肯定感が高まり、進んで気持ちの良い返事や挨拶ができる児童生徒を育成していく。	教職員8	B	**86**	14	72	14	0
				児童生徒10	A	**100**	62	38	0	0
				保護者7	A	**100**	15	85	0	0
				地域3	A	**100**	67	33	0	0
健康な生活習慣の確立	児童生徒は、早寝・早起き・朝ごはんの習慣が身に付いている。 目標値：教職員、児童生徒、保護者の**約85%が肯定**	A	◇評価は全てAであるが、保護者と児童生徒の結果にずれが見られる。保護者は習慣化されていると思っているにもかかわらず、児童生徒の一部が否定している。小学校のマスターウイークの保護者の言葉や児童生徒の日常会話から、実際は、早寝・早起きができていないと思われる。 ◆マスターウイークの実施、調査結果の分析・考察と日々の声掛け、家庭との連携を密にし、できない原因や改善方法を三者で話し合っていく。早寝の習慣は、家庭の協力が必要であるため、「保健だより」を通して、課題や改善の方法を発信し、家庭と連携した取組を行う。	教職員9	A	**100%**	29%	71%	0%	0%
				児童生徒13	A	**92%**	38%	54%	8%	0%
				保護者9	A	**100%**	20%	80%	0%	0%
		A	◇今回も保護者と児童生徒の結果にずれが見られる。保護者の一部は就寝時間が遅いと感じているが、児童生徒は「試験対策やテスト勉強のため遅くなる」という意見が多かった。全体の割合で考えると8割を超えるのでA評価とした。 ◆今後もマスターウイークの実施と日々の声掛け、家庭との連携を密にし、より良い生活習慣を身に付けさせていく。早寝の習慣は、家庭の協力が必要であるため、家庭学習への取り掛かり時間を早められるように、家庭との連携を密にしていく。	教職員9	A	**100**	14	86	0	0
				児童生徒13	A	**100**	62	38	0	0
				保護者9	B	**61**	23	38	31	8
体力づくりの推進	教科体育の充実や部活動、課外体育、「えひめITスタジアム」への参加により、体力・運動能力が向上している。 目標値：教職員の**約85%が肯定**	A	◇体を動かすことに抵抗を感じている児童生徒はおらず、放課後の水泳練習や部活動に意欲的に取り組めている。小学校では特に、水泳が好きで授業、放課後練習とも目標を持って頑張る姿が見られた。しかし、学校生活全般としては、しんどい思いをしており、学校が楽しくないと感じている児童生徒8%・保護者20%がいることが、大きな課題である。 ◆体育学習で様々な運動に親しませながら運動能力の向上を図る。また、目的意識を持つことや運動の意義などを工夫して知らせ、放課後の陸上練習や部活動にも積極的に参加させる。 ◆自分の好きなことを伸ばすとともに、自己有用感や自己肯定感を育てたり、授業の楽しさを味わわせたりすることで学校が楽しいと思う児童生徒を100%にする。	教職員10	A	**86%**	29%	57%	14%	0%
		A	◇前期に引き続き、体を動かすことに抵抗を感じている児童生徒はおらず、放課後の陸上練習や業間に行っている運動、部活動に意欲的に取り組めている。また、小中学校ともに、体力を高めたり体幹を鍛えたりする運動を、授業導入時の補助運動として継続して行っている。しかし、学校生活全般としては、学校がやや楽しくないと感じている児童生徒2名、保護者が4名いることが、今後の大きな課題である。 ◆体力テストの結果やITスタジアムを活用し、全国や県内の小中学生と比較することで児童生徒の運動に対する自信につなげられるようにする。児童生徒の活躍を褒めたり、できたことを認めたり、励ましたりすることで自己肯定感を高め、自信を持って学校生活を送ることができるように支援していく。そして、学校生活が楽しいと思う児童生徒と保護者を100%にする。	教職員10	A	**100**	14	86	0	0

学校運営協議会委員の意見	・すべての項目でA評価だったのでうれしく思う。 ・昨年度には「後始末運動の推進」とあったが、今年度は後始末や履物をそろえるなどのことはできているのだろうか。 ・挨拶や返事はよくなってきていると思う。 ・感謝の気持ちも自然に言葉になって出るように育ってほしい。	学校の対応	・全ての保護者に基本的生活習慣の徹底を呼び掛けたり、教職員が児童生徒一人ひとりの個性を認める対応を強めたりしながら、健全育成を目指していく（後始末運動も含む）。 ・家庭・地域・学校が連携・協働できるように、より開かれた学校づくりに努め、地域社会総がかりの教育を進めていく。 ・新体力テストの結果を参考にして、業間の活動内容を精選したり、工夫したりして継続していく。中学校においては、授業や部活動の準備運動や整理運動の機会も利用して、より運動に親しむ習慣を身に付けていく。 ・継続して、HPの更新や各種通信や便りを発行し、より多くの方々に本校の取組を知っていただく。
	後期 ・よくできていると思います。返事ができることは大事だと思うので、今後も継続と徹底をしてほしいと思います。 ・一律の指導は限界があると思います。一人ひとりに合う指導をお願いします。		・継続して保護者に基本的生活習慣の徹底を呼び掛けていく。そして、教職員は児童生徒理解に努め、一人ひとりの個性を認める対応を強めたりしながら、健全育成を目指していく。 ・返事や挨拶は、相手への敬意や思いやりを示すための大切な手段であることを生徒たちに理解させ、継続的に指導していく。

４　健全育成の推進

規範意識の醸成	「決まり」や「マナー」を遵守し、自立心と規範意識のある児童生徒に育っている。 目標値：教職員、児童生徒の**約90%が肯定**	A	◇生徒や保護者はおおむね良い評価であるが、教師の評価が低い。児童生徒はマナーや規範意識をある程度は守れていると思っているが、教師から見ると自分本位な行動をとったり、学校の決まりを十分に理解できていないと判断している。「決まり」や「マナー」に対する指導が不十分な可能性がある。 ◆再度、教職員、児童生徒、保護者間で決まりを確認し、タイミングを逃さず指導を行うことで児童生徒の意識を高める。一部の規範意識が低い児童生徒については、粘り強く指導していく。	教職員11	B	**71%**	0%	71%	29%	0%
				児童生徒12	A	**100%**	46%	54%	0%	0%
				保護者8	A	**100%**	10%	90%	0%	0%
				地域4	A	**100%**	56%	44%	0%	0%
		A	◇教師・児童生徒・地域の評価は前期と比較して上がったが、保護者の中に「規範意識があまり身に付いていない」と考えている方もおり、課題が残る。 ◆どのような事象に対して前期より課題を感じられているのかが明確でないからこそ、学期初めや終わり、週末等の生活指導を今まで以上にしっかりと行う。学校保健委員会として実施したSNSに関する学習会の保護者の参加者が少なかったので、内容や児童生徒の感想などを伝え、参加すればよかったと思っていただけるような啓発を行う。	教職員11	B	**86**	0	86	14	0
				児童生徒12	A	**100**	69	31	0	0
				保護者8	A	**92**	23	69	8	0
				地域4	A	**100**	78	22	0	0
個に応じた指導の充実	児童生徒一人ひとりの教育的なニーズに応じて生活や学習上の困難の克服を目指した指導・支援に努めている。 目標値：教職員の**約90%が肯定**	A	◇いろいろな特性を持った児童生徒はいるが、それぞれの特性の共通理解を図りながら、全ての教職員が指導を行っている。その結果がA評価につながっていると思われる。 ◆個別の支援計画や教育相談等に基づき、より個のニーズにあった支援を行っていく。	教職員12	A	**100%**	14%	86%	0%	0%
		A	◇職朝や職員会議での情報交換等で全教職員の共通理解の、指導ができているので、前期よりも高い評価となっている。 ◆今後も共通理解を図りつつ指導・支援を継続する。必要に応じて関係諸機関との連携も図っていく。	教職員12	A	**100**	29	71	0	0
生徒指導の充実	教師は、児童生徒一人一人と教育相談などを通して悩みの把握に努め、いじめを絶対に許さない、見逃さない学校づくりに努めている。 目標値：教職員、保護者、地域住民の**約90%が肯定**	A	◇毎月の「なかよしアンケート」「学校生活アンケート」や、それを踏まえての教育相談がきちんと実施されていること、教職員がタイムリーな指導や支援を行ったことなどで、教職員・保護者・地域の評価は高いが、肝心の生徒の評価が低い。児童生徒のアンケートの内容が「教師に相談できるか。」という内容なので、いじめに対する意識より、相談しやすさという環境（人間関係・時間）が不十分なのかもしれない。 ◆今後も引き続き、「なかよしアンケート」「学校生活アンケート」及び教育相談を確実に実施し、児童生徒の思いや願いを早期に把握した上で素早い対応に努める。また、教育相談だけでなく、普段の学校生活から生徒の人間関係の構築に努める。保護者や地域に対しては、ホームページを中心に学校の取組や児童の様子等について、積極的に公開していく。	教職員13	A	**100%**	43%	57%	0%	0%
				保護者11	A	**100%**	50%	50%	0%	0%
				地域5	A	**100%**	33%	67%	0%	0%
		A	◇保護者の中に「あまりいじめや差別問題が起きないように努力していない」を選択された方がいることが課題である。 ◆この評価項目は、3の道徳教育と同じなので、同様に毎月の教育相談や生活アンケート及び、この学校評価アンケートで、この項目を選んだ児童生徒はいないので、教育相談や各種アンケートは実施しつつ、集団の中での児童生徒の様子をしっかりと観察して異変を見逃さないようにする。	教職員13	A	**100**	43	57	0	0
				保護者11	A	**92**	23	69	8	0
				地域5	A	**100**	44	56	0	0

学校運営協議会委員の意見	・篠南の子たちは、決まりやマナーを守ることが平均以上にできていると思うが、人の多いところへ行った時の対応は、やはり、人慣れしていないと感じる。 ・意識の持ち方や考え方が一人ひとり違うので、一律の指導は難しいと思う。児童生徒に分かりやすく、その都度の指導が必要だと感じる。	学校の対応	・小規模校の特性を生かし、児童生徒との日々のコミュニケーションや日記指導、毎月実施している小中合同の教育相談などを利用して、きめ細かな指導や対処を行う。また、児童生徒の長所を更に向上させるための支援も積極的に取りくんでいく。 ・進学等により、環境が小集団から大きな集団へ変化した場合でも対応できるよう、オンライン学習や交流学習等でコミュニケーションを図る場を経験させ、どんなことにも自信を持って取り組める児童生徒を育成する。
	後期 ・文化祭などの様子を見ていると、他校の児童生徒と変わりなく、のびのびと活動していることが伺えました。 ・登下校の際、両手に持っている荷物が多いと思います。特に、月曜日は両手がふさがり、危険だと思います。		・インターネット等で見聞きする情報は、都会も田舎も差がなくなってきている。児童生徒は、それなりの情報を得ていたり知識を持っていたりしているものとして教育をしていかなければならない。したがって、教職員にも情報教育や情報モラル等の知識や技能を高められるような研修に取り組むようにしていく。 ・現在、必要な教材のみを持ち帰るようにし、学校に置いておけるものは置いておくようにしている。ランドセルに入るものは入れるように指導していく。

5　安全・安心な教育環境の整備、教職員の資質・能力の向上

安心・安全な教育環境の整備と充実	学校は、災害等に対する安全教育の推進を行い、「自分の命は自分で守り切る」ことのできる児童生徒の育成に努めている。 目標値：教職員、児童生徒、保護者の**約90%が肯定**	A	◇どの項目においても、100%の肯定率であった。見守り隊や地域の方々からの情報や助言に応じて安全指導を行ったり、防災参観日への参加協力をいただいたりした結果だと言える。自分の命は自分で守ることができる指導を継続的に行わなければならないと考えている。 ◆今後も防災・減災活動や教育は、地域と共に進めていく。大地震が発生するとライフラインが寸断され、孤立状態になる可能性が高いので、そのような状況になったときでも生き抜くことができる教育と準備をしていく。また、土砂災害想定避難訓練や弾道ミサイルが発射された場合の対応訓練も定期的に行っていく。	教職員14	A	**100%**	43%	57%	0%	0%
				児童生徒11	A	**100%**	77%	23%	0%	0%
				地域6	A	**100%**	56%	44%	0%	0%
				保護者13	A	**100%**	70%	30%	0%	0%
		A	◇前期に引き続き、どの項目においても、100%の肯定率であった。町防災教育研究指定や防災参観日、定期的な避難訓練、砂防学習会、防災ツーリズムなどの取組を経験し、その内容や様子を広く知らせることができた結果だと考える。 ◆今後も防災・減災活動や教育は、地域と共に進めていく。特に、黒潮町の防災タワーの見学と体験から、愛南町の沿岸部にも防災タワーの必要性を感じた児童生徒が多くいた。ますます「自助・共助・公助」の防災についての学びを深めていく。	教職員14	A	**100**	57	43	0	0
				児童生徒11	A	**100**	85	15	0	0
				地域6	A	**100**	78	22	0	0
				保護者13	A	**100**	46	54	0	0
教職員としての資質と指導力の向上	学力向上、生徒指導等において研修や自己研鑽に努めている。 目標値：教職員の**約90%が肯定**	A	◇校内研修は、計画に沿って行っている。ICT機器のスキルアップ研修などの基礎的な研修を繰り返し実施しており、それらの研修が教職員が互いに学び合うよい機会となっている。教材研究などの自己研修を行う時間を適切に確保することが課題である。 ◆互いが実務を通じて指導していく方法や教職員間の対話を通じて自身が気付き、答えを見付けていく方法などを活用し、「報告・連絡・相談」できやすい体制づくりに努めていく。ICTスキルの高い者から学ぶ姿勢を全教職員が持つようにし、町ICT支援員の積極的な活用をしていく。	教職員15	A	**100%**	14%	86%	0%	0%
		A	◇2学期は、校内の研究授業や校外での研修に参加する機会が多く、それぞれが指導力向上に向けて、研修をすることができた。また、基礎・基本の定着や多様な表現活動を取り入れた学習の工夫をするために、教員同士で情報共有を積極的に行い、授業の改善に努めた。 ◆今後も、互いの強みを活かし、多様な視点からの研修を行う。また、小中合同校舎の特性を生かし、互いの授業を見学することで、新たな気付きを得られるように学び続けるようにする。	教職員15	A	**100**	43	57	0	0

学校運営協議会委員の意見	・防災等の学習会は、高齢者も積極的に参加していかなくてはと思う。	学校の対応	・引き続き、保護者・地域・学校の3者合同の防災学習を実施していく。 ・通学路や避難経路等の定期的な点検整備活動を協働できる体制づくりを継続して行っていく。 ・人事のバランスのよさを生かし、互いが実務を通じて指導していく方法や教職員間の対話を通じて自身が気付き、答えを見付けていく方法などを活用し、「報告・連絡・相談」できやすい体制づくりに努めていく。 ・ICTスキルの高い者から学ぶ姿勢を全教職員が持つようにし、町ICT支援員の積極的な活用をしていく。
	後期 ・避難訓練や防災学習に地域住民がより多く参加できるように、地域と学校が連携を強めるようにしたいと思います。 ・篠南地域にある集会所や公民館にも防災に関する備品や備蓄品があるので、小中学生にも知ってほしいです。		・学校のホームページや学校だよりなどを活用し、避難訓練や防災学習の情報を継続的に発信していく。その際、地域の方々が参加できることも付け加えるようにする。 ・各家庭から避難する訓練を企画・運営するなど、避難場所を児童生徒の自宅付近の集会所に設定して訓練をしてみる。